

広島県がん検診サポート薬剤師 声かけ運動週間について



平成26年2月3日(月)～8日(土)を
声かけ運動週間と題して、1日10名
を目標として、声かけをしていただいた
結果です。

■ 「声かけ運動週間」終了後のアンケートに、45名の広島県がん検診サポート薬剤師から回答がありました。

■ 期間中、がん検診の受診等について声かけをした人数の合計は860名でした。

	2月3日 (月)	2月4日 (火)	2月5日 (水)	2月6日 (木)	2月7日 (金)	2月8日 (土)
1	6	1	2	4	6	—
2	2	5	3	—	5	7
3	10	8	11	10	15	8
4	1	6	5	6	4	2
5	12	14	1	13	15	13
6	1	2	0	0	1	—
7	0	0	1	1	1	0
8	0	0	0	1	0	0
9	5	0	2	1	3	1
10	8	6	5	5	6	3
11	4	3	2	4	9	2
12	12	8	13	9	11	10
13	1	3	0	1	0	0
14	3	2	0	0	0	—
15	10	6	3	0	0	0
16	1	0	0	0	3	0
17	0	0	0	0	3	0
18	2	2	3	3	0	1
19	6	2	2	5	3	2
20	6	8	5	4	11	2
21	3	2	2	1	2	0
22	8	6	6	0	6	0
23	4	7	8	5	11	6
24	0	0	0	0	0	2
25	3	2	2	2	2	4
26	0	2	2	1	2	2
27	8	6	7	4	7	—
28	3	3	3	0	0	1
29	5	6	6	4	7	0
30	1	2	1	3	1	1
31	0	0	0	3	5	0
32	2	1	4	1	2	1
33	3	1	2	3	10	0
34	0	0	0	1	0	0
35	8	7	7	6	4	3
36	0	0	2	1	3	2
37	0	5	8	0	8	8
38	0	6	4	0	3	1
39	0	1	0	0	0	0
40	3	4	4	2	5	2
41	1	1	0	—	0	0
42	2	2	4	2	2	3
43	0	1	1	1	0	0
44	8	5	6	15	20	11
45	4	1	1	1	2	0

～ 今回の取組を行った広島県がん検診サポート薬剤師の感想です ～

ご自分の為にごがん検診を受ける大切さ

お一人暮らしの方は、がん検診を受けておられます、声かけで気づかれる方もいらっしゃいました。

国保や社保家族の40代女性がうけておられないことが多いようです。

高齢者にはおすすしにくい。会社の検診で済まされる方は毎年きちんとされている。肝炎ウィルス無料検査はなかなか浸透していないため一層進めて行く必要を感じる

広大の県民講座を見ておられる方に声かけできました。イベントとタイアップしたりその期間に啓発活動すると良いと思われます。

体調の悪そうな方にはお声がけしにくいため、対象者が少なかった。元気な方にはチラシを見てお声がけできたが、がん検診を受けている人は0人だった。

呉市が発行している平成25年度検診検査のしおりがわかりやすい(日付値段がかいている)

高齢者の方が多く、病院にかかられているので血液検査はよくされているが、がん検診として意識されての検査は少ないように思う。

男性より女性の方が検診への意欲は高いように思うが、最後の一步まで踏み出せる方はいなかった。

三原市が開催する「ホワイトデーがん検診(託児付)(乳がん、子宮頸がん、大腸がん)をすすめた。

5年程度うけていないということで、この機会に行ってみようとのことだった。ちょうど調剤が一包化で患者さんも他におられず声かけすることができました。

定期的に検診を受けるよう心がけているとのこと、検査結果が異常なく安心できる。

職場での検診はみなさん受けておられるようでした。市からのハガキは忙しい等の理由でうけていない方もおられました。

受診されてるドクターに聞いて相談したとの希望がある。

がん検診の必要性は皆さん感じておられました。

がん検診ポスター
知らない7、
知っている1、
受けた3人
会社検診で受けた2人、
一部の項目のみ受けた3人

ばたばたしていると声かけを忘れてたり、タイミングをのがしたりとうまくいかなかった。がん検診サポート薬剤師としての声かけをどのようにすればいいか悩んでいた部分もあったので今回の例を参考に今度は少しずつ声かけをしていこうと思う。

がん検診に行かれていない方が予想以上に多く驚きました。
高齢者の方は、今更行かなくてもいいと思っている方も多く、病医院に通っているからという安心感もあるようです。
便の検査は病院に検査するよう言われてしている方が多くいたので、他の検査も行くように声をかけてみました。
職場の検診でがんが早期に見つかったと言われる方もいらっしまったので、より多くの人へ声かけをしていく必要があると感じました。

声かけをしましたが、かかりつけ病院受診をしているので特に検査を別に受けていない方がほとんどでした。がん検診には興味・感心をもたれていても、肝炎ウイルスにはあまり感心を示されませんでした。

客数が少なく声かけの成果も少ないですが、市の広報に接する前に意識付をすることが出来たと思います。肝炎ウイルス検査は特定健診の時に受けたという反応がありました。

ポスターや資料を見て声をかけてくださる方が多かったです。
高齢者のほとんどは「定期的に市の検診を受けているので大丈夫」と言われる方がほとんどでした。患者さんに質問されたときに資料を確認しながら答えることが多かったので、自分自身もっと勉強が必要だと感じました。

「がん検診」というと患者さんはそう思っていないが、かかりつけでいろいろながん発見につながる検査を受けている人が意外に多かった(胃カメラ、バリウム、検便大腸カメラ、肺X線、血液検査)

ただ、婦人科の検診はほとんど受けていないという人もいました。女性同士の方が声をかけやすいので、今後きっかけをつかんで検診をすすめるようにしたい。

外来患者が多い時期だったため、なかなか声かけができなかった。運動週間のときだけではなく常に声をかけるようにしていこうと改めて思った。

業務中の声かけをしていく中で、なかなかがん検診の話まで話す時間のゆとりが無いことに気付かされました。気軽に毎日の声かけを行っていくことにします。

職場検診で全員検査済みでした。高齢者はかかりつけ医で検診していました。

声かけ運動をすることは良いと思いますが、少し準備期間(例、:ポスター掲示等)をいただいた方がよりよい効果が上がると思います。

がん検診ポスターの認知度は低かった。定期受診されてる患者さんは定期的に検診も一緒に受けていた。市町が実施するがん検診を案内すると興味深く聞いてもらえた。

厳しい寒さのため来店者もほとんど無かったが、7日に声かけ出来た方は、職場での検診、出産時の検診等でがん検診にも感心が高く20~30代の方だったため、子宮がん検診には定期的に受診されているようでした。

投薬時に声かけすることになるので、服薬・生活習慣に直接関係することは話しやすいが、時間が無い中でがん検診の話をだしにくかった。

高齢者が多く多くの方がすでにごがん検診を受けておられた。

県境にあり、島根県の方も多く、島根県の方には声をかけない?と迷うケースも多かった。

がん検診の必要性は認識していても、実行に移せない方がほとんどです。行政、会社、地域から背中を押す活動が必要です。(半強制的に検診を受けさせること)

声かけに取り組みました。
来店者数が少なかったことと、忙しいときはなかなか声が掛けられなかったと反省しています。しかし、声を掛けた人ほとんどががん検診受けているよ！という人でした。

仕事をしているとがん検診に行けないのが実情だと思います。

通常の薬の話
をしながら、急に
検診の話をするのは
予想以上に難しかった。

お知らせのハガキで比較的受診する人は多かった、過去に受けた検診で痛い思いや苦しい思いをして以降受けてない方も目についた。具体的検診方法を伝えることも一つの方法かと思いました。

予想通り国保社保の家族は最近行っていないという方が多かった。中に、早期発見してあっちこっち切られるのはいやなので検診には行かないと言われたかがおられました。重要性について説明はしましたが・・・

怖い、先が短い、めんどい、など反応が、腰が重い感じです。

声かけの時間がとれませんでした。

「癌」という言葉を使うことに薬剤師自身が抵抗を感じてあまり声かけが出来なかったように思います。

検診を受けている人が多かった、主婦(若年)はあまりアンケートはしていないので、この年代は少ないかも、高齢者会社員はほぼ受けているようだった。

また、服薬指導の中で会話が上手にできる薬剤師は声かけが出来ている印象でした。また主婦の受診率の低さも実感しました。

「会社の検診」がある方はあまり興味を示してくださる方が少なかった。検診の声掛けから、ご自分の病気(C型肝炎)の話など詳しく説明して下さり、子宮筋腫が大きくなり腸とくっつき、はがすのに輸血をしたら、肝炎に・・・といった内容でがん検診含め検診へ行こうと声をかけることはとくに若い人(30~40代)に有効だと感じた。